

プレスリリース

グラスヒュッテ、2026 年 9 月

1815 アップ/ダウン

伝統的な要素 – 個性あふれる気品

歴史にその名を刻むランゲの懐中時計から着想を得たデザインと、職人の手仕事によって仕上げられた自社製キャリバーを特徴とする「1815 アップ/ダウン」には、決して立ち止まることなく進化し続ける、という私たちの揺るぎない想いが体現されています。このタイムピースの独創的なデザインはザクセンの時計製造における伝統に深く根ざしながらも、コンパクトなケースサイズと洗練されたカラーコンビネーションにより、独自の気品を醸し出しています。今回この「1815 アップ/ダウン」ファミリーに加わったのが、ピンクゴールド 750 製とホワイトゴールド 750 製の 2 つの特別なモデルです。いずれも世界 300 本限定となっています。



ホワイトゴールド 750 製とピンクゴールド 750 製の新作 1815 アップ/ダウン

その名の由来である機能そのものを主役に据えた「1815 アップ/ダウン」の新作 多くのランゲウォッチに共通して見られるように、そのパワーリザーブ表示にはザクセンの精密時計製造が長年培ってきた伝統が継承され、針が AB（ダウン）を指していれば、ゼンマイがすべて巻き戻った状態であることを示し、AUF（アップ）を指していれば、ゼンマイが完全に巻き上げられた状態で、最大 72 時間のパワーリザーブを備えていることを示します。

メインの機能に組み合わされる付加的なものであることがほとんどのパワーリザーブ表示が、「1815 アップ/ダウン」では主役を務めているのです。スモールセコンドに対向する 8 時位置に配されたサブダイヤルが、このタイムピースがあとどれくらい動き続けることができるかを

お知らせます。機械的観点から見た「1815 アップ/ダウン」のパワーリザーブ表示の特殊性として挙げられるのが、単に既存のキャリバーにモジュールを追加するのではなく、特別に開発された省スペース型の遊星歯車機構により、ムーブメントに直接組み込まれている点です。つまり、ザクセンの精密時計製造の創始者であるフェルディナント・アドルフ・ランゲが掲げた「完璧」へのこだわりが体现されたタイムピースとなっており、それ故に彼の生誕年がその名に冠された「1815」ファミリーの一員となっているのです。精度、機能性、エレガンスを見事に融合させた懐中時計を製作することがフェルディナント・アドルフ・ランゲが追い求めた目標でした。

クラシックな懐中時計のデザイン – コンテンポラリーなカラーコンビネーション

レイルウェイ風の分目盛り、視認性のよいアラビア数字、中央のダイヤルセグメントがくぼんだデザインは、歴史的なランゲの懐中時計を彷彿とさせます。ピンクゴールド 750 製とホワイトゴールド 750 製の 2 つのモデルで登場した今回の新作では、こうしたデザイン要素がブルーのダイヤル上で際立ち、タイムピースに現代的な表情を与えています。これによって、シルバーカラーのアップ/ダウン パワーリザーブ表示用サブダイヤルや青焼きした針を備えたスモールセコンドダイヤルとの間に、魅力的なコントラストが生まれています。ランセット型の時針と分針は、それぞれのケースに合わせたカラーを纏っています。スリムでわずかに段差が施されたベゼルが、細部まで徹底的なこだわりを持ってデザインされたダイヤルを美しく引き立てています。

直径 37.5mm、厚さわずか 8.7mm というコンパクトなケースにより、バランスの取れたプロポーションとなり、このタイムピースならではの気品ある佇まいを演出します。ホワイトゴールド 750 製モデルでは、ブルーのアリゲーターベルトがスタイリッシュな外観を引き立て、ピンクゴールド 750 製モデルにはレディッシュブラウンのアリゲーターベルトが合わせられています。



新作 1815 アップ/ダウンを駆動する自社製キャリバーL051.2

伝統が紡ぐ時計製造の芸術性と、職人技の極致との融合

サファイアクリスタルのケースバックからは、手巻き式の自社製キャリバーL051.2の機械的な美しさを垣間見ることができます。歴史的な懐中時計を想起させる特徴的な要素としては、伝

統的な未処理の洋銀製 4 分の 3 プレート、サンバースト仕上げが施され、ケースバックから見えるように組み込まれた巻き上げ歯車、そして青焼きされたネジで固定された 7 つのビス留め式ゴールドシャトンなどが挙げられます。また、ハンドエングレービング入りテンプ受けの下には、伝統的なチラネジテンプ、緩急針のない調速機、ランゲ自社製ヒゲゼンマイが収められ、高い歩度精度をもたらします。

この「1815 アップ/ダウン」の新作は、ハンプトンコート宮殿で開催される今年の「コンクール・オブ・エレガンス」で発表されます。

A.ランゲ&ゾーネについて

ドレスデン出身の時計師フェルディナント・アドルフ・ランゲは、1845年に時計工房を設立し、ザクセン高級時計産業の礎を築きました。彼が製作した価値の高い懐中時計の数々は、今でも世界中のコレクターたちの垂涎的となっています。第二次世界大戦後、A.ランゲ&ゾーネは東ドイツ政府により国有化され事実上消滅、一時はその名が人々の記憶から消え去ってしまうかと思われました。しかし1990年、フェルディナント・アドルフ・ランゲの曾孫ウォルター・ランゲがブランドを復活させます。現在では、ゴールドまたはプラチナのケースを使った腕時計を中心に、毎年数千本のみ製作しています。A.ランゲ&ゾーネの時計には必ず、自主開発され、手作業で入念な装飾と二度組みを行ったムーブメントが搭載されています。1990年以降に開発された自社製キャリバーは77個を数え、A.ランゲ&ゾーネは世界でも最高峰の地位を確立しました。その代表作には、一般モデルとして初めてアウトサイズデイトを搭載したランゲ1や、瞬転数字式時刻表示を搭載したツァイトヴェルクがあります。まれに見る複雑機構を搭載するミニッツリピーター・パーペチュアル、ランゲ1・トゥールビヨン・パーペチュアルカレンダー“ルーメン”、トリブルスプリットは、受け継がれてきた時計作りの技をさらに高めようとするA.ランゲ&ゾーネの真摯な姿勢を体現した時計です。2019年には軽快さとエレガンスが共存するステンレススチール製オデュッセウスを発表し、A.ランゲ&ゾーネの歴史に新たな章を開きました。

プレス窓口

リシュモンジャパン株式会社 A.ランゲ&ゾーネ マーケティング コミュニケーション
電話：03-4572-4520 | メール：presse@lange-soehne.com

インターネット

alange-soehne.com | facebook.com/langesoehne | youtube.com/user/alangesoehne
instagram.com/alangesoehne | #alangesoehne | #lange1815 | #1815updown | #neverstandstill

画像ダウンロード

press.alange-soehne.com

1815 アップ/ダウン

ムーブメント	ランゲ自社製キャリバーL051.2、手巻き、ランゲ最高品質基準準拠、手作業による組立ておよび装飾、五姿勢調整済み、未処理の洋銀製プレートとブリッジ、ハンドエングレービングを施したテンプレート受け	
ムーブメント部品数	245	
石数	29	
ビス留め式ゴールドシャトンの数	7	
脱進機	アンクル脱進機	
調速機	耐震機構付きチラネジテンプレート、最高品質の自社製ヒゲゼンマイ、振動数 21,600 振動/時、スワンネック形バネと側面にある調整用ビスにより微調整可能なビートエラー修正機構	
パワーリザーブ	完全巻き上げ状態で 72 時間	
機能	時、分、ストップセコンド機能を搭載した秒表示、パワーリザーブ表示 AUF/AB（アップ/ダウン）	
操作系	ゼンマイ巻き上げおよび時刻調整用リューズ	
ムーブメント寸法	直径：30.6mm、厚さ：4.6mm	
風防&ケースバック	サファイアクリスタル（モース硬度 9）	
リファレンス	244.037	244.028
ケース	ピンクゴールド 750	ホワイトゴールド 750
ケース寸法	直径：37.5 mm、 厚さ：8.7mm	
ダイヤル	シルバー925 製、ブルー、サブダイヤルはシルバーカラー	
針	ゴールド 750 およびブルースチール	
ベルト	手縫いのアリゲーターベルト、レディッシュブラウン	ハンドステッチを施したアリゲーター レザー、ブルー
バックル	ピンクゴールド 750 製ピンバックル	ホワイトゴールド 750 製ピンバックル
限定数	300 本、限定番号刻印入り	300 本、限定番号刻印入り